

2019-20 年度 RI 会長:マーク・ダニエル・マローニー / ガバナー:鈴木秀憲 / 会長:小椋 剛 / 幹事:野口一信  
クラブ会報委員会 委員長:小池俊輔 / 例会日:木曜日 午後 12:30 開会 / 会場:ガーデンパレス

## 第2600回 2月第3例会 2月13日(木)

### [ 夜間例会 ]

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| ●点鐘 小椋 剛 会長      | ●委員会報告                 |
| ●国歌斉唱、ロータリーソング斉唱 | ●卓話(玉川大学名誉教授:芦澤 成光 先生) |
| ●四つのテスト唱和        | ●出席奨励・スマイル委員会          |
| ●会長の時間 小椋 剛 会長   | ●点鐘 小椋 剛 会長            |
| ●幹事報告 野口一信 幹事    |                        |

#### 点 鐘

#### 会 長 の 時 間



#### 小椋会長

皆さんこんばんは、先週の公開講演会は心配しました集客も自治会連合会の皆様が頑張ってくれましてほぼ予定の400名の来場者数になりました。古沢委員長を中心と致しまして、運営に当たっていただきました委員の皆様大変ありがとうございました。心より感謝申し上げます。山村武彦先生のお話は、実際に現地を訪れ現地調査を実施しているので大変説得力

があり、来場いただいた皆様の心に残る講演だったと思います。皆さん居眠りもせずに、最後まで耳を傾けていたように思います。

先生の講演の中で「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」「まだ大丈夫」という意識が働く正常性バイアスと凍り付き症候群に関しましては、まさにその通りと思われた方も多いと思います。2014年におこった御嶽山の噴火で登山者58人が噴石や噴煙に巻き込まれて死亡したそうですが、死亡者の多くが噴火後も火口付近にとどまり噴火の様子を写真撮影していたことがわかっております。携帯電話を手に持ったままの死体や、噴火から4分後に撮影した記録が残るカメラもあり、彼らが正常性バイアスの影響下にあり「自分は大丈夫」と思っていた可能性が指摘されているそうです。

大雨の災害の切迫度を5段階で伝える新制度の運用が始まり、うちレベル3は高齢者の避難、レベル4は全員の避難、レベル5はすでに災害が発生状態で命を守る最善の行動が求められるとなっております。昨年10月12日に上陸した台風19号の時に自治体

の避難指示レベル4が流れましたが、私もそうですが避難された方は少なかったと思います。記録的な豪雨が日常のものとなった今日、警報や注意報が発令されることも多く、テレビで流れる防災情報にどこか慣れてしまっている人は多いのではないのでしょうか。「またか…」「ここは大丈夫だろう」「自分には関係ない」正常性バイアスが誰にでも起こりうると自覚し、警報や注意報を素直にうけとめ、最悪の事態をしっかりと想定して避難行動がとれるように心がけたいと思います。イソップ物語の「羊飼いと狼」のように、最後は狼に食べられてしまわないように注意しましょう。

本年度のメイン事業「防災公開講演会」が無事終了し、ホット胸をなで下ろしているところですが、残り4ヶ月も手を抜かずに真面目に役目を果たしたいと思いますので、協力よろしく願いいたします。以上、会長の時間挨拶と致します。ありがとうございました。

## 幹 事 報 告



### 野口幹事

#### 幹事報告

- ・本日、小学生3,700名分の防災グッズを会長と行田市教育委員会へ届けてまいりました。
- ・2月20日18:30～ゆもにて、地区大会へ向け臨時理事会を開催し組織編成等を決めてまいりたいと思います。

## 卓 話



### 講師紹介：職業倫理委員会 高橋委員長

〈講師略歴：芦澤 成光 先生〉

昭和28年3月生まれ 東京出身

中央大学商学部卒業 中央大学大学院博士課程修了  
玉川大学文学部にて専任講師、玉川大学経営学部教授  
同大学名誉教授、その後、常葉大学経営学部専任教授  
専門は「企業戦略理論」「日本の企業年齢」



玉川大学名誉教授、常葉大学特任教授：芦澤成光先生

テーマ：「企業の社会的責任と戦略形成」

内容は以下のような内容でした。

企業の戦略形成と社会的責任に対して、社会からの透明性や関与への要請は拡大している。企業への要請に対応することは、企業の成長にプラスといえる。そのような話をするにあたり、枠組みを下記の通りに進めていきます。

1. 学術分野での戦略研究の変化
2. 大企業経営者の考え方の変化
3. 中小企業経営者の戦略を巡る考え方の変化
4. 考察

## 5. 課題

### 1 〈学術分野での戦略研究の変化・・・〉

近年の企業を取り巻く**環境の変化**（情報技術の進展に伴うネット環境の変化）、**組織上の変化**（優れた知識を持つ人材の増加）、**文化上の変化**（社会的企業に対する評価が厳しきなる）

↓

- ① 従来、企業戦略は 企画部門で策定され、一部の現場の意見を取り入れていたが、徐々に現場中心に戦略策定を行う企業が生まれてきた。
- ② 企業の戦略形成の透明性や包摂性が強く求められている（公開を求める動きが生まれる）

\*包摂とは・・・経済・社会が、本来の諸関係にとって外生的な存在を取り込む過程をいう。

- ③ ②のような動きからイギリスでは会社法で大企業に対し「戦略レポート」の提供を義務付けている。
- ④ 企業戦略の公開化（open strategy）は広範な利益を企業にもたらしている。

↓

以上のようなことから学術研究も企業戦略の公開化に視点が移り、2019年、イギリスのオックスフォード大学、ケンブリッジ大学で open strategy, opening strategy といったタイトルの文献が出版されている。

### 2 〈大企業経営者の考え方の変化〉

アメリカ合衆国の企業経営者の考え方の変化としてこれまで以上に従業員や地域社会の利益を尊重する方針を示すようになった。

また、世界の大企業経営者が参加するダボス会議では資本主義の再定義が議論となり、指針として「ステークホルダー（従業員や市民）資本主義」を掲げるようになってきている。

日本の大企業経営者の考えは他社との公開性（共同開発）には積極的なものの、従業員の包摂には積極的でない。

### 3 〈中小企業経営者の戦略をめぐる考え方の変化〉

地方の老舗企業においても、従来の社長を中心とする

経営や企業戦略形成は残りつつも、従業員が中心となって戦略形成し、その戦略を尊重、実行する経営者も生まれてきている。

### 4 〈考察・・・〉

企業戦略の公開化（オープン化）とは戦略内容、戦略形成プロセスにおいて、従業員の包摂である。

では、オープン化の目的とは・・・

- ① 社会の変化へ積極的に対応するために、多くの従業員の知識創造活動の参加が不可欠となっている
- ② 従業員のモチベーションを上げるため
- ③ 外部の知識を利用することで優れた戦略形成が可能
- ④ 株価により正確な情報が反映され、投資家にとって有効性がある

では、戦略形成への透明性や包摂性の実現に向け経営者が取り組むこととは・・・

- ① 従業員の包摂に当たり、経営者は従業員に対し企業のミッションや方向性をわかりやすく説明
- ② 経営者は従来の戦略担当者と共に、従業員に対し戦略策定の技法を指導
- ③ 戦略形成プロセスにおいて部門間の調整役
- ④ コミュニケーション機能により透明性と包摂性を確実にし、最終決定を下した経営者は決定理由についても詳しい説明をする必要がある  
また、上下関係なく話せる文化をつくる必要がある

### 5 〈課題〉

戦略形成においては企業の実用に合わせた多様な取り組みが必要で、一律には取り組めない。また、中小企業などでは公式文書化した戦略を作ることが、あまり意義がない場合もある。

この他、戦略上の秘密保持の必要性が生じる場合もある。

以上のような内容のお話でした。

## 出席状況報告

T	正会員数	63名
P	本日の出席者	25名
本日の出席率		40%

## ニコニコ報告

○小椋会長

・芦澤様、卓話よろしくお願ひします。

○野口幹事

・芦澤様、卓話よろしくお願ひします。

○小沢副会長

・芦澤様卓話よろしくお願ひします。

○小林副会長

・芦澤様卓話よろしくお願ひします。

○大野会員

・芦澤様卓話よろしくお願ひします

○清水会員

・芦澤様卓話ありがとうございます。

○小池会員

・誕生祝いありがとうございました。

※本日のニコニコは 10,000 円でした。

ありがとうございました。



司会 倉持会員